

タイトルの“あいのかぜ”は、「私（英語でI）の風」、「あいの風（富山弁で北東からの涼しい風）」、「愛の風」を表しています。

この“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集しています。

これまで皆様には、年2回、町内会の班単位で回覧してご覧いただいておりますが、19号では広報とやまに折り込みし、各家庭にお届けすることができました。ぜひ、ご覧ください。

【特集】さあ、あなたもチャレンジ！



我が国では、男女が共に輝いて生きる男女共同参画社会の実現に向けた様々な取り組みが推進されています。

内閣府においても、「女性のチャレンジは、男性の元気、社会の活気」というキャッチフレーズで、「女性のチャレンジ支援策」を積極的に推進しています。

今号では、女性の自立支援における国の取り組みや富山市男女共同参画推進センターで開催されたセミナーの取材を通して、女性が性別役割分担意識にとらわれず、自分の描いた夢や希望の実現に向けて努力し、活躍できる社会について考えてみました。

1. 女性のチャレンジ支援に向けた国の取り組み

我が国では、人口の半分以上を女性が占め、世界最長寿の健康に恵まれ、かつ世界有数の高い教育を受けているにもかかわらず、世界の中でも社会における活躍の割合が低いといえます。その現状を捉え、暮らしの構造改革を図る上で、「女性のチャレンジ支援策」を推進しています。

その要点として、次の2点が掲げられています。

① ポジティブ・アクションの推進

社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が少なくとも30%となることを目指して、積極的な各種取り組みを進めるよう提案します。

ポジティブ・アクションとは、男女間の格差改善のため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、社会のあらゆる活動に参画する機会を積極的に提供することであり、男女共同参画社会基本法に規定しています。

② 身近なチャレンジ支援の推進

様々な分野で希望をもってチャレンジできるよう、チャレンジ・サイト（ホームページ）等によるチャレンジモデルの提示や情報提供により、一人ひとりが自分に合ったチャレンジを具体的にイメージできるようにします。

内閣府：チャレンジ・サイト

<http://www.gender.go.jp/e-challenge/>

女性のチャレンジ支援策についての基本的考え方

男女共同参画社会の実現

仕事と子育ての両立支援

3つのチャレンジ

- ・「上」へのチャレンジ…意欲と能力がある女性が活躍できる職場づくり
- ・「横」へのチャレンジ…新しい分野へのチャレンジ
- ・「再」チャレンジ………出産、育児、介護等から手が離れてからのチャレンジ

全体的な支援

- ① ポジティブ・アクションの推進
- ② 身近なチャレンジ支援の推進

様々な分野における支援

（雇用、起業、NPO、農業、研究、各種団体、地域、行政、国際等）

男女がともに個性と能力を発揮できる社会へ

社会経済の活性化へ
一人ひとりが豊かさを感じられる社会へ

2. 女性の自立支援に向けたセミナーに参加して

男女共同参画推進に関する様々な学習啓発講座や各種相談事業を実施する拠点施設である富山市男女共同参画推進センター（富山県民共生センター 3階）において、「女性のための自立支援セミナー」が開催されました。その中から、「富山県内の女性起業家の体験談」の様子と参加者の声をご紹介します。

○起業された方々のお話

明野美津子さん

（在宅介護サービス経営）

施設のヘルパーとして7年間働いていましたが、地域一帯によるぬくもりの介護サービスを実現したくて独立しました。「儲ける」より「働く」を信条に、5人という小さい規模ではあるけれども、利用者に喜んでいただけるよう、ヘルパーの質の向上に努めています。

自分が思い描く介護のあり方を実践でき、とてもやりがいを感じている反面、経営者としていろいろな場面で決断しなければならない責任の重さを感じています。

当面の問題は、サービスを維持するための人材の確保です。



山本 栄子さん

（生地販売ネットショップ経営）

子育てをしながらも夢を持てる仕事はないかと考え、生地のフリーマーケット販売から始め、店舗を構えることができました。お店も順調で、子育てと両立できていましたが、介護に伴う親との同居を機会に閉店しました。

しかし、仕事への情熱は捨て切れず、独学でホームページを開設してネットショップを運営しています。

おかげで、顧客の幅が日本各地に広がるとともに、家族との時間もゆとりとることができます。



境井 智子さん

（フリーアナウンサー）

フリーアナウンサーになることを決心し、知人の紹介で徐々に実績を積み、仲間3人で資金を出し合い、事務所を設立しました。アナウンサー、司会、ナレーションや社員教育の講師等のほか、アナウンサー養成講座を開設し、クオリティの高い人材の育成に努めるとともに、営業活動を精力的に行い、仕事を確保しています。

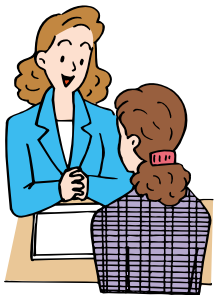
年齢や家族環境等の異なる3人での共同運営の難しさや、個人ではなく、組織の利益を求める必要性に悩んだりもします。

創業は簡単ですが、継続が難しいと実感しています。



○参加者の声

- ・独立するためのきっかけやヒントが得られ、参考になりました。
- ・同業者とのネットワークづくりができればいいと思います。
- ・現在、パート就労をしながら子育てをしていますが、子どもが小学生になり、夏休み等の長期休暇が増えるとパート就労も困難に。パート就労に代わる何かを見つめたくて参加したのですが、いろいろな方々と話ができ、力をいただきました。



グループに分かれて受講者・講師が様々な意見交換を行いました。

富山市男女共同参画推進センターでは、平成9年度に女性交流センターとして開設以来、女性の自立支援に関するセミナーが開催されています。開設当時の「女性起業家育成セミナー」受講者の中には、起業し、現在もますます活躍している方々がいらっしゃいます。また、受講者の方々が集まり、起業したい女性を支援しているグループもいらっしゃいます。自分が思い描く夢を叶えたいという熱意・努力はもちろんのこと、ちょっとしたヒントやきっかけが、皆さんのチャレンジの成功につながるのではと思います。

行政機関等で、就業や生涯学習等へのチャレンジを支援する様々なセミナーが開催されていますので、よりよいきっかけを見つけて、「なりたい自分」に向かってチャレンジしてみましょう。

また、女性のチャレンジには、周囲の方々の支援も必要です。女性が固定的な性別役割分担意識だけで家事や育児に縛られず、家族・地域みんなで応援してはいかがでしょうか。

～平成17年度に予定されている女性の自立支援に関するセミナー等のご紹介～

- チャレンジ支援セミナー 職場・地域・家庭等において、「なりたい自分」を手に入れるためのチャレンジを支援するセミナー
 ㊦ 富山市男女共同参画推進センター（富山市湊入船町6-7 ☎433-1760）
- 女性としごとセミナー 自分の能力を生かして働けるよう、働く女性や働きたい女性を支援するセミナー
 ㊦ 富山県民共生センター（富山市湊入船町6-7 ☎432-4500）
- Re・Beワークセミナー 出産・育児・介護のために退職し、再就職を希望する方を登録し、再就職に向けた準備や基礎知識等を身につけるセミナー
 ㊦ 財団法人21世紀職業財団富山事務所（富山市桜橋通り2-25 ☎444-1526）

レポート

男女共同参画とやま市民フェスティバル

～女と男のつどい2004～とやま発 “いのち、輝いて” の会場から

11月14日（日）に富山市男女共同参画推進センター及び富山県民共生センター（サンフォルテ）にて実施された「男女共同参画とやま市民フェスティバル～女と男のつどい2004～とやま発 “いのち、輝いて”」に参加しました。当日は、男女共同参画社会づくり作文コンクールの表彰式（受賞者・最優秀賞受賞作品は次頁に掲載）やテレビ等で活躍されている服飾評論家の市田ひろみ氏による「人生っておもしろい」と題した講演がありました。また、各種ワークショップや団体・グループの活動発表等があり、来場された皆さんはそれぞれに興味のあるテーマのイベントに参加していました。

そのうち、「男性料理教室」では、セルビア・モンテネグロ出身でスポーツ国際交流員水球コーチとして活躍されているスロボダン・パブコヴ氏を講師に迎え、男性17名がセルビア・モンテネグロ料理（セルビアンサラダ等）に取り組んでいました。出来上がった料理は、参加者や調理実習室に集まった皆さんにも振る舞われ、異国の食文化を味わっていました。充実した皆さんの顔が印象的でした。

また、男女共同参画推進センターの保育ボランティアの皆さんによる「パパと遊ぼう」では、7組の親子（主に父子のペア）が参加し、手遊びや「ふれ合いタッチタッチ」（お父さんと子どもによる身体を使った遊び）、大きなお芋掘りの紙人形劇や工作、風船遊び等を楽しそうに取り組んでいました。参加されたお父さん方にとっても、子どもと二人で体験を共有したり、他の親子（父子）の関係を見ることで、子育てへの関心が深まる良い時間を過ごしていると感じました。



料理をはじめ家事や育児に参加されるお父さん方もどんどん増えています。まだ、抵抗感を持っている方がいらっしゃいましたら、ぜひこのような催しに参加し、体験してみると、意外に自分に向いていたり、楽しく感じるかもしれません。



上記以外に開催されたワークショップ

暴力から子どもが身を守る力をつけるために	富山CAP
うつ病と向き合う	エッセンスクラブ
市議会のしくみについて（市役所出前講座）	富山市女性団体等連絡協議会
男女共同参画コント	舩座
悪徳商法の対処方法について	富山市女性団体等連絡協議会
ペットボトルで遊ぼう	ガールスカウト富山県第19団
月経と月経前症候群をもっと知って快適に過ごそう	クリニックリストの会 “いと”

全国男女共同参画宣言都市サミットinみとに参加して

男女共同参画に関する都市宣言を行っている全国67市区町村（平成15年度末現在）による全国男女共同参画宣言都市サミットが、今年度は茨城県水戸市で開催されました。

内閣府男女共同参画局長の名取はにわ氏による男女共同参画推進本部報告の後、ジャーナリスト・男女共同参画会議専門委員として活躍されている竹信三恵子氏の基調講演がありました。

オイルショック後の家計を助ける感覚で始めた妻達のパート就労が、今日における女性の労働力の軽視につながっていると話されました。そして、男女共同参画が進んだ国といえるアメリカでも同じような流れがあり、改善のための様々な運動や裁判を繰り返して今日に至っていることから、日本においても女性の労働力を再認識していく必要があると説かれました。



基調講演の他、9市区町（小杉町を含む。富山市は平成14年度参加）の首長によるパネルディスカッションが開催されました。また、会場ホールでは、各市区町村の啓発パンフレットやパネル等が多数展示されており、それぞれの地域における男女共同参画推進に向けた様々な取り組みが実感できました。

男女共同参画社会づくり作文コンクール

市では、男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に、男女共同参画に関する作文を募集し、数多くの作品が寄せられました。(応募総数104点)

最優秀賞

「男女共同参画社会に必要なこと」

和合中学校3年

三 銅 綾 子

優 秀 賞

「男女平等について思うこと」

和合中学校3年

岩 瀬 千 恵 美

「性別にとらわれずに自分らしく生きる」

堀川中学校3年

岡 田 卓 也

「真の『男女平等』とは!？」

堀川中学校3年

金 澤 有 里 香

「特性を生かし、共につくる社会を目指して」

奥田中学校1年

二 楢 渚

最優秀賞

男女共同参画社会に必要なこと

和合中学校三年 三 銅 綾 子

ここ数年で、「男女共同参画社会」という言葉をよく耳にするようになりまし。しかし、小学生のとき子供新聞記者でサンフォルテを訪れたときは、何となく女性の意見のように思われました。実際、当時の富山県の男性の半数以上は、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考えに賛成しているというデータが残っています。その後、どのように考えに変化があったのかに興味をもち、この夏に再びサンフォルテを訪れました。そのときいただいた資料によると、平成十四年には、「男は外、女は家」という意見に県の半数以上の男性が反対していることがわかりました。それに、今回訪れたときは、前回より男性生活講座の内容も増え、それに参加する男性も増加しているそうです。男性生活講座では、男性のためのリラククス講座やクッキング教室、意識改善のための講演会などが行われています。昨年までの参加者数は、時には定員オーバーで、抽選さえされたそうです。このことから、「男女共同参画社会」についての男性の意識が、ここ数年で急速に高まったということがわかりました。

私は、このような意識の変化はとて素晴らしいことだと思います。今までは、仕事が終わっても家事や育児を手伝わず、女性に負担がかかっていたのではないのでしょうか。だから、男性が少しでも家事や育児に関わることは大切なことです。その第一歩が意識の改善だと思います。

しかし、女性差別の感情や「女らしく」、「男らしく」という言葉がなくなっただけではありません。仕事場でも「男性中心の職場慣行がある」と答えた人が、男女とも多かったというデータもあります。私の家でも掃除や洗濯は全て母がしています。

このままでは、完全な男女共同参画社会は作れません。完全なものにするためには、性別にとらわれず、一人一人が自立することが必要なのだと思います。

一配偶者からの暴力で悩んでいる方へー

配偶者暴力防止法が改正されました。

保護命令の対象を、子供や離婚した元配偶者まで拡大するとともに、退去命令期間を2か月に延長することなどを柱とした改正法が成立し、平成16年12月2日に施行されました。

○改正の主な内容

- 一 「配偶者からの暴力」の定義の拡大
- 二 保護命令制度の拡充
- 三 被害者の自立支援の明確化 等

詳しくは、男女共同参画課 (☎443-2051) まで。

内閣府では配偶者からの暴力被害者支援情報サイト

(<http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.htm>) を開設しています。



編集後記

～今号をもって、私たち編集委員の任期は終了します。ありがとうございました。～

・男女共同参画の啓発によって、社会は緩やかではあるものの確実に変わってきているように思えます。一人ひとりが意識をもつことで、より素敵な社会を築けるよう、みんなで作っていきましょう。(布施)

・編集委員を経験した中で気づいた疑問(女性に権利が認められず、なぜそれが当たり前とされてきたのか等)について、これから研究してみたいと思っています。(小山)

・女性のチャレンジは本人の能力プラス環境が大きく左右すると思います。しかし、その環境を上手に変えていくことも能力の一つかなと思いました。2年間、編集に参画してたくさんの事を学びました。(夜久)

編集 男女共同参画課 ☎ 443-2051
F A X 443-2176

ご意見・ご感想は、【宛 先】〒930-8510富山市男女共同参画課(住所記載不要)
【アドレス】danjyo-01@city.toyama.lg.jp まで

4月1日から「男女参画・ボランティア課」に課名変更いたします 新【アドレス】danjyo-volun@city.toyama.lg.jp